

限界集落で暮らす後期高齢者を支える要因

村上 佳栄子* 京都府立医科大学医学部看護学科
星野 明子 京都府立医科大学医学部看護学科
桂 敏樹 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

本研究は、限界集落で暮らす後期高齢者の生活実態を調査し、対象者の暮らしを支える要因について検討していくことを目的としている。京都府内の限界集落で暮らすX集落の後期高齢者5名の女性を対象に半構成的インタビューを実施した。分析にはグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。限界集落で暮らし続ける後期高齢者を支えている要因は【地域で培ってきた人間関係】、【自然と共存する郷土への愛着】、【地域衰退への危機感と守りぬく使命感】、【精神的な強さ】、【健康への自負心】の5つのカテゴリで構成されていた。カテゴリ間の関係性より、《主体的な生き方》と《環境との相互作用》の2つの特徴が見出された。

キーワード ⇒ 限界集落, 後期高齢者, QOL, エンパワメント, 地域への愛着